週刊ビル経営

平成31年 3 月25日

第55回「REB-1000社の会」開催

元金融庁長官五味廣文氏が講演

SD建築企画研究所

代表取締役
清水　修司氏

今月18日、不動産ビジネスの拡大を目指すセミナー「第55回REB-1000社の会」が渋谷区千駄ヶ谷の「SYDホール」で開催され、当日の参加者は250名を超えた。このセミナーを主催する一般社団法人REB-1000社の会は、建築設計・不動産事業を展開するSD建築企画研究所（東京都渋谷区）代表取締役の清水修司氏が理事長を務める。

「REB-1000社の会」は、今回で55回目を迎える。主に不動産・建設事業者による勉強会、業界内での人的交流の促進を目的に会は設立され、定期的にセミナーを開催してきた。

今回は「平成の金融行政を振り返る」と題し、「金融庁のドン」といわれ、在任中バブル崩壊後の日本の金融行政の立て直しに手腕を発揮した、元金融庁長官の五味廣文氏の講演が行われた。五味氏はバブル崩壊後の日本の金融の混乱状態を時系列で振り返りつつ、平成の金融、経済行政を総括した。その中で五味氏は当時のバブル崩壊後の日本の金融行政について、銀行への公的資金の投入の必要性には宮沢元首相は1992年の段階で気づいていたと指摘しつつ、戦後世界でこれだけのバブル崩壊を経験したのは日本経済が初めてだったとし、ある意味では対応が遅れたのは仕方がないことだとの認識を示した。

また、これからの日本経済の見通しについて世界経済の下振れ圧力はある程度受けるが、まだ成長する見込みはあると楽観的な見通しを示した。

講演終了後の質疑応答でも来場者と活発な議論が行われた。

今回の講演終了後も定例の情報交換会が盛大に開催され、来場者が活発に意見交換や名刺を交換する場面がみられた。

▶超満員となった講演会場